

微小管_細胞内の神の手?!!

2024/11/01

細胞一般の生存と生殖化学反応は”何でも屋＝微小管”に管理されてる、
化学反応確率未来姿は電子雲先行原理により、事前に何でも在りの真空中に用意
されてる。化学結合主役の素粒子電子雲の状態遷移は0時間、結果は確率!!。
以上は固い結論、以下は筆者異見、完成自然界を見ると神はサイコロを支配するのではないか?!!

[1]:問題提起＝臨死と幽体離脱証言と天界救済。

(1)人間の「意識」は生きている間はどこをさまよい、そして「死後」はどこへ向かうのか

<https://indeep.jp/where-is-our-consciousness-heading/>

(2)脳がなくても意識は存在できる。あるいは意識は物質同様に不滅の法則に則っていると考え

<https://indeep.jp/is-your-brain-really-necessary/>

引用先原著論文からは以下は確認できないので筆者自力で探索。

単細胞生物はシナプス神経ネットワーク無しで泳ぐ等の目的行動を示す。ハメロフ氏?<Romain Brette>によると意識行動はゾウリムシ内部の微小管によって媒介される。微小管は脳ニューロンや全動植物細胞にある。アンテナ機能で量子次元から意識を伝達する「量子デバイス」として機能...
「泳ぐニューロン」ゾウリムシの統合神経科学

<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC8208649/>

補足 1:意識(=魂)と進化。

生命起源

http://www.777true.net/Surveying-on-the-Origin-of-Life_JapaneseV.pdf

当初トンデモの西原氏の”魂は内臓にあり、脳はただの配電盤説”は正しい。

補足 2:微小管<細胞内の何でも屋>。

以下医科歯科大論文で微小管は細胞内の”何でも屋”が判ります。

微小管

佐藤啓介、寺田純雄 東京医科歯科大学 医歯薬学総合研究科 神経機能形態学分野

<https://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E5%BE%AE%E5%B0%8F%E7%AE%A1>

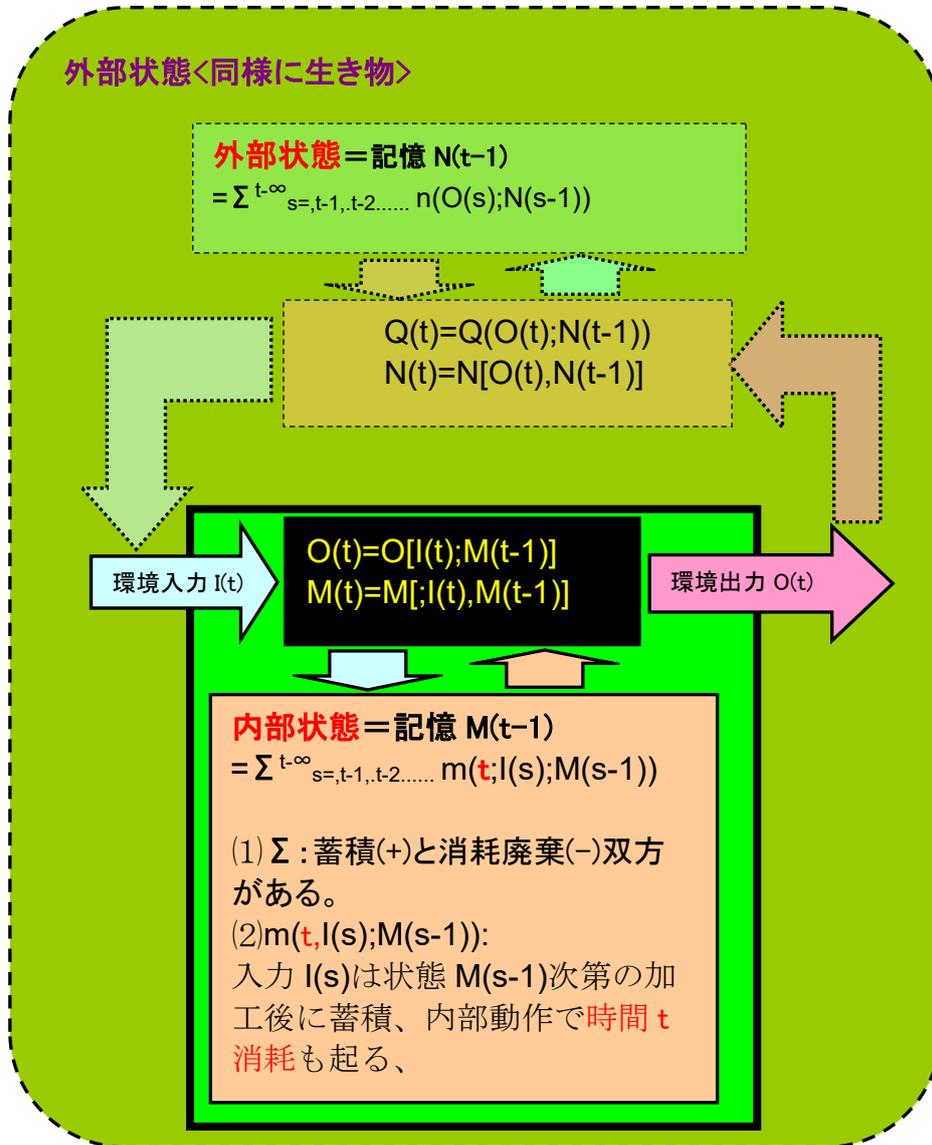
微小管は、真核生物における主要な細胞骨格の一つである。チューブリンのヘテロダイマーを基本構成単位とする中空の円筒状線維で、外径は約 25 nm。重合と脱重合を繰り返す非常に動的な構造物で、細胞の形態維持や変化、細胞分裂、細胞内物質輸送、鞭毛や繊毛の運動等の多様な細胞機能に重要な役割を果たしている。さまざまなタンパク質と結合したり、翻訳後修飾を受けたことにより、その構造や動態が調節され、多様な機能を発揮する。

以下確立既知の限定議論: I オートマトン、II 熱力学、化学物理III確率電子雲先行原理、流れ開放系のIV<平衡状態>統計力学確率分布、V 生化学鋳型結合のガラポン原理、

微小管機能は物質結合 & 乖離<その周期連続である物質運搬>を担う超能動触媒、細胞行動は内部 & 外部環境(変数)濃度変化が引き金、確率発生の未来物質形態は量子真空中に事前用意、そこへの到達は生命必死の試行錯誤、

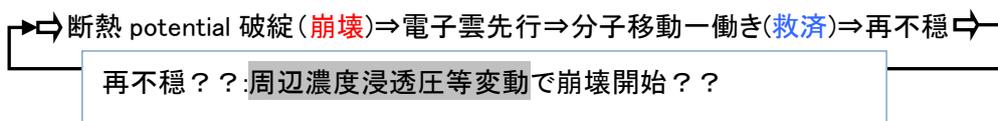
I オートマトン

:オートマトン概念は計算機科学歴史で誕生。一般系の出力応答は入力と内部状態で因果(確率)的に決まる。核心の内部状態は過去蓄積の減価償却的?履歴となる。現時点細胞内部状態が記憶、その内容と入力が出力応答決定。自身に作用する場合として入力素材を内部加工で自身の体を作る場合等、逆コースとして内部老廃物の外部廃棄が重要。



化学反応視点での構成部材:

- (1) 黒箱が何でも屋の微小管機能なのだろうか。とすれば数学概念的に必然存在となろう。
- (2) 黒箱は意識中枢となるのだろうか。
- (3) 複線巻き螺旋管が何故多様な量子化学機能??



補足3: <II 電子雲先行原理> 化学反応未来姿は事前に真空中にある

その姿は生命が強靱に切望、慈悲深き神が差し伸べる形になる?!!

① 化学正電荷元素結合の主役は負電荷素粒子の電子雲、

その量子状態は一定有限時間凍結状態 $\langle H_0 \text{ 固有状態} \dots \dots \dots$ **解には時間がない!!**。>

② 電子状態遷移は0時間で発生、結果は確率になる。

☞: 量子力学系状態はエネルギー可観測の **自己共役演算子** $= H_0$ の Schrodinger 等式固有状態解。

解には時間がない!!。対偶論理として状態遷移時間発生には非自己共役演算子 $= H_s$ が必然存在、実際に(素粒子)量子場の標準理論では $H_s =$ 場の演算子が超関数の積になり、それは**数学的非因果特異的**。

エネルギー非可観測の **H_s 実現時間は0**、結果は非因果=**確率**になる。

<http://www.777true.net/phys-hidden.pdf>

イオン核が低速なれど運動状態で、電子波凍結定常状態は判りづらいだろう。

その回答は真空偏極超連鎖、

<http://www.777true.net/Real-Image-of-quantum-Chemical-Reaction.pdf>

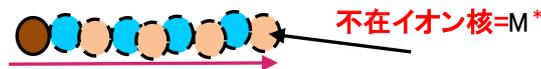
(1) 中辻氏から電子雲先行原理を教わった、当時筆者理解は**静電場を写し取るというキルリアン写真、植物成長未来の形**が見える。生命分子は基本的にイオン静電結合の鍵と錠の関係。

(2) 先行電子雲がジッと分子元素 M が結合定位置にくるまで待つ = **電子雲先行原理**。

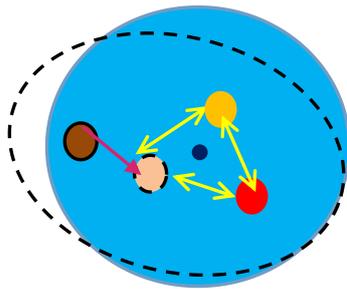
実は先行電子雲ではイオン核 M 等は定常状態定位置 M^+ に既に居る = 電子状態定常波!!

だがそれは真空偏極から発生した仮想イオン M^+ 、0から生まれたから**負物質 M** が寄り添い、その列はこれからやってくる M 迄、引力**超連鎖**を形成する。M を引き寄せるのは先行電子雲でない。

不在イオン核である。



電子雲先行原理の裏舞台



(3) 定位置到着で慣性で振動が始まる \Rightarrow (5)。

(4) 一般 gauge 場理論により Faddeev-Popov ghost が一般物質の**超双極子**を作る反応が提示できる。

<http://www.777true.net/Energy-Creation-Process-from-QED-to-QGD.pdf>

P4/16,

nucleon dipole formation reaction by FP ghost $\{\bar{C}^a, C^a\}$ with gauge field $\{A^a_\mu\}$:

Not only elementary particle, but also any complex particle has dipole ghost in vacuum.

(5) しつつく反復するがイオン核が相当の運動でも電子雲不動とは陰の定位置不動イオンが存在、その位置周辺で引力振動(安定 potential)するわけです。外乱で振幅臨界超越ならば電子雲瞬間遷移、再度先行原理機構が動作。

補足4: <Ⅲ統計力学確率分布>結合と乖離の化学反応抽象一般論

細胞は物質種濃度変化で動く<電子雲変動>。

☞: 細胞機能生化学詳細は筆者には無理、化学反応支配一般原理のみの議論。

I 熱力学; <2024/10/30 加筆>; 生命~意識魂存在必然~**微小管**。

生命は流れ開放系のみで成立<流れ停止閉鎖系=エントロピー最大平衡状態=死>、低エントロピーエネルギー食材捕食とウンコ等最大エントロピー排出、捕食・生殖動作=己欲求級本能と外界、危機回避認識等

電子雲先行原理=化学反応未来姿は事前に真空中にある！。

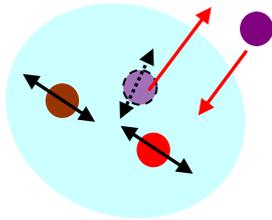
化学結合主役電子雲は通常時間は凍結不動状態<唯一の固有値エネルギー状態>

で**結合分子群**は安定**断熱 potential** 下で可逆振動。他方環境変化<温度、物質濃度>で

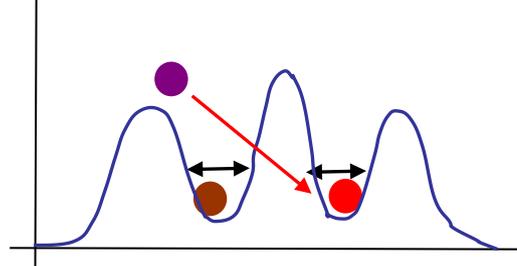
分子振動増大は**断熱 potential** 閾値超えの**乖離反応**が起こる。この時、電子雲は0時間状態遷移、新たな分子群がその断熱 potential 谷間配置に移動するまでじっと待機してる<**電子雲先行原理**>。

細胞中の神の手=万能管理人=**微小管**は物質転送機能を有するとは電子雲先行で物質移動を誘導してる事になる。電子雲遷移は断熱 potential 閾値超越振動。

断熱 potential 破壊濃度浸透圧増減

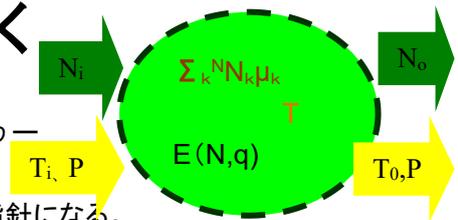


断熱 potential と分子可逆振動



細胞は物質種濃度変化で動く

温度 T 槽と物質 N 流動層につながる開放系量子状態確率 ρ



細胞本質は**非平衡**だが、平衡視点から化学反応進行方向指針になる。

$E(N, q)$ 内部**平衡**力学系エネルギー、 $N_k \mu_k$ は**定常流れ付随**エネルギー。

☞: **非平衡第一原理の量子確率過程力学の具体応用は難しい<今の所、簡単解しかない>。**

<http://www.777true.net/img007-Quick-Guide-to-Quantum-Stochastic-Mechanics.pdf>

統計力学定理と化学反応方向。

$$\rho_N(q) = Z^{-1} \cdot \exp\left\langle \sum_k N_k \mu_k - E(N, q) \right\rangle / k_B T,$$

E =系力学 energy, N =粒子数, q =量子状態量, N_k = k 種濃度, μ_k =化学(乖離結合)potential、

☞: 化学濃度 N_k 増減は $\rho_N(q)$ 増減に反映、結果は高確率方向に化学反応進行。

<平衡状態??>開放系量子状態確率 ρ の意味:

生物一般は恒温系だから、生化学反応は物質種濃度 N_k 依存!、

その具体内容は物質種依存= μ_k 化学(乖離結合)potential、

結合は安定満腹睡眠<断熱 potential>、乖離は不安定安飢餓行動<断熱破綻-電子雲未来姿>、

細胞分裂は満腹乖離反応に相当、飢餓は逆の共食い結合生殖行動<ゾウリ虫>..

<2024/10/30 加筆>;生命~意識魂存在必然~微小管。

①**入力**=内部変化は生命秩序維持目的の因果的。

大雑把に言えば腹が減る認識は細胞内部に不安定断熱 potential 破綻が起る=因果的生命危機認識は学習形成機構、細胞内部に不安定断熱 potential 破綻が起る=因果的認識 trigger(**入力**)は外部からの環境濃度変化による受容器官への働きかけ

②**出力**=下界働きかけ(**出力**)の確率試行錯誤動作<電子雲先行原理未来姿へ~神の慈悲>。

上記①化学変化=**電子雲遷移**は固い結論、遷移結果は確率的だから**試行錯誤**になる。

結果の成否認識は①機構。望む結果が出るまで入力内部認識結果と応答①②行動。

天界啓示のあるべき未来姿を一途祈願行動です。

☞ ; ゾウリムシ動作は目的因果の **feed forward, feed back** でなく**試行錯誤動作**と指摘。

「泳ぐニューロン」ゾウリムシの統合神経科学

<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC8208649/>

IV;生化学鑄型結合のガラポン原理<"**素材**"さえそろえば、後はガラガラポンで出来る>。

大沢文夫、生命の精密機械,p105、読売科学選書 17,1987

タバコモザイクウイルスをバラバラ分解して、適当な条件下で混ぜると再現した、第4章:自己集合する分子機械(p162)、部品一式を箱の中でガラガラポンで完成品!!!、その理由はたんぱく質分子が特定分子選択結合性に優れるからだという<鑄型結合>

*生化学素材最大特徴は、**分子特定部位が近距離強力**の静電鑄型結合の結果、目的大型分子立体構造に自己集合的になるという。他方で乖離反応も必要で、**近距離強力**の逆も真なり。

電子雲先行原理の確率試行錯誤結果、都合よい**未来姿**の分子素材が集まり進化形成になったのだろう。⇒熱印加でふ化する卵、まゆの中の液状化素材、毛虫の蝶への変身、

毛虫は鳥に食われる恐怖一杯。蝶の形は飛べて安心、素材集積化学反応が前者に戻らず、後者に推進する意志力=**未来形捕獲力**がなければなるまい。

生命意識とは電子雲先行未来姿の成否認否、否なれば再試行=後者に推進する意志力、宗教では祈りが天界を動かすと言う。

☞:樹木バランス成長を考察、彼らには中枢神経無し、とすれば個別細胞間通信が無ければバランス成長は出来ない、細胞成分流には通信内容と微小管には通話機能もある事になる、農作物が音楽を楽しむは農家の証言!!